

第172回 令和8年2月9日（月）

「不安と勇気について」

鳥に気持ちがあれば、ひな鳥が初めて空にはばたくときはきっと不安だと思います。落ちたら無事ではいけないことは本能でわかるでしょうから、最初の離陸は勇気がいると思います。

袋から出るときのカンガルーやイソギンチャクの中から大きな海に飛び出すクマノミも同じ気持ちでしょう。そして人間も同じだと思います。

小さいころ親に連れられて初めて遠出したとき、親がいる安心感もありますがそれでも不安は感じたと思います。何もかもが大きく見えたことでしょう。

このときに感じる不安を克服すると新しい世界が広がります。自分の足で立って、自分の目で世界を見ることで人生が大きく変わります。海外に行くことも雑誌や動画で見ることもよりも実際に体験することで感じ方がまったく違います。自分の力でそれを成し遂げることができれば得るものは何倍にもなることでしょう。

庇護された安全なエリアから飛び出すことはとても勇気がいることです。いまでは珍しくなくなった野球選手のメジャー挑戦も活躍の保障が全くない状況ですから不安がないはずがありません。それでもすべての選手が喜びに満ち溢れた顔をします。彼らにも失敗する可能性があることはわかっているはずですが。それでも新しい世界を見ることができる高揚感や期待がそれを上回っているのだと思います。

初めて車の免許を取って今まで行ったことのないところにドライブするとき、私のころはカーナビなどなかったので地図で行き方を何度も確認しました。計画通り行けたわけではなかったけれど、県外に1人で行くことができたことが本当にうれしかったし、体験できる可能性がぐんと広がって気持ちが高まりました。

フィールドを離れて未知の世界に行くことは人間を成長させる特效薬だと思います。年を重ねるごとに未知の体験は減っていきます。この体験は若い人の特権だと思っています。

私にもまだ行ったことのない国や場所はたくさんあります。いつか見てみたいと思いますが仕事や予定に縛られて結局優先度が下がってしまいます。「いつか」と言うことの9割近くは実現しません。「いつか」ではなく「いつ」に実行期限を決めることが大切だと思います。

人生の中で体験を優先する時期を持てるのなら絶対持ったほうが良いと思います。何十年も続くその後の人生をきっと豊かなものにしてくれます。自分の視座を変えるような体験はお金を使っても、時間を使っても決して浪費ではなく投資になるはずです。